

京都府教育委員会

教育委員長 大橋 通夫 様

教育長 田原 博明 様

## 京都市内夜間定時制の募集定員増を求める請願署名

今、定時制では様々な事情で全日制に行けなかった人たちが、困難な中で学んでいます。できるだけ多数の人に、高校教育を受ける機会を保障することが行政の責務です。ところが、京都市内の夜間定時制では、年々その門戸が狭められてきています。

2000年度には1000名あった京都市内夜間定時制の募集定員が、今年度の440名まで毎年のように減らされました。志願者数は500人前後とあまり変わっていないため、年々倍率は上昇してきました。

特に京都市以南の南山城地域には1校も定時制がないため、京都市の南に位置する桃山高校定時制へ入学希望者が多く、桃山高校定時制普通科では1997年度から12年続けて1次入試で志願者が定員を超えています。ところが、2007年に、桃山高校の定員が40名減らされたうえ、伏見工業高校夜間定時制の定員が60名から30名に減らされ、60名定員の洛陽工業高校定時制は募集停止になりました。定員増が必要な府南部地域で定員が130名も減ってしまったのです。このため、1次入試で多数の不合格者が出たうえ、2次募集でも実施したすべての市内夜間定時制で定員を超える志願者となり、42名もの不合格者が出ました。

今年度、こうした状況が改善されないまま、さらに西京高校定時制で募集定員が10名減らされたこともあり、ついに市内夜間定時制全体の志願者は、1次の募集定員合計388人に対して436人と、史上初めて倍率が1倍を超えました。2次募集でも、全体で残定員135人に対して、受検者212人、合格者136人、倍率は1.5倍を超え、76人もの大量の不合格者を出す事態となりました。

働きつつ学ぶ青年はもとより、中学時代に不登校を経験し、やっと決意して夜間定時制を志願した中学生の思いや保護者の願いを考えれば、定時制への入学の門戸を狭めている貴教育委員会の責任は重大だといわざるをえません。

私たちは、この異常な事態を解決するため下記のとおり市内夜間定時制の募集定員を増やすことを要求します。志願者や保護者の立場に立って実現されますよう、お願いします。

### 記

- 1 2009年度の京都市内夜間定時制の募集定員を増やしてください。
- 2 桃山高校定時制普通科の定員を40名増やし、2006年度の定員（80名）まで回復してください。

氏 名	住 所